

2022年5月1日（復活節第3主日、C年）牧師メッセージ

「主だ！」

（ヨハネによる福音書 21:15-25）

司祭ヨセフ太田信三

今日の福音書、主イエスが弟子たちに網を下ろすよう命じると、大量の魚が獲れました。これに類似した話が、他の福音書では弟子の召命のところにおかれています。しかし、ヨハネによる福音書はこの箇所をご復活の文脈においています。ヨハネによる福音書は、四福音書の中で最も後期に記されたもので、著者が属したであろうヨハネ教団は、主イエスに直接会うことがなかった世代の人々です。しかし、ヨハネによる福音書は繰り返し「時空を超えて、あなたがたも、主イエスに会える」ということを伝えます。2000年後を生きるわたしたちも、主イエスに会うことができる、そう言うのです。しかし、そのようなことがどうして起こるのでしょうか。それが、今日の福音書に記されていることです。

漁は夜に行います。しかし、弟子たちは何も獲れないまま夜が明けてしまいました。そこに、ある人が来て、網をおろしなさいと言いました。言うとおりにすると、なんと大漁の魚が掛かりました。その人の言葉が大漁の恵みをもたらしたのです。漁を宣教活動と捉えるなら、ヨハネ教団の人々は宣教活動の中でこの恵みに与り、それを起こしたのが「主だ」と実感したのです。たとえば、わたしたちも教会の交わりにおいて、主イエスが導いてくださらなければ、出会うことがなかった人々と出会います。また、想像もつかない導きによって、教会を訪れる人を目の当たりにします。その時、わたしたちもこのことを起こしてくださったのは「主だ」と実感します。ヨハネ福音書が伝え続けるのはこの「実感」です。今も「主だ」という実感の中で、わたしたちも主イエスに出会うことができると伝えるのです。

主イエスは、獲れた魚をさっそく焼いて、パンと共に弟子たちに与えました。もはや、弟子の誰一人、「あなたはどなたですか」と問う者はいませんでした。その言葉によって大漁に恵まれ、共に食事をするその交わりにおいて、主イエスが共におられることを実感したからです。これが、ヨハネ教団の人々の実感でした。わたしたちもまた、この交わりにおいて、主イエスと今、会うことができます。わたしたちは互いに無関心であったり、食事もできないような関係であってはなりません。そうではなく、主の言葉に信頼して網を降ろし、共に食卓を囲む、まさに家族の交わりにおいてこそ、2000年後を生きるわたしたちも、主イエスと共に生きることができます。主イエスは今も、み言葉によって導き、共に食事をする交わりへとすべての人を招いておられます。